

科目名	特別研究			選択必修	必修
担当教員	安酸史子、西片久美子、石崎智子、志賀加奈子、河口てる子、原玲子、志賀くに子、高田由美、阿部範子、新田純子、鎌倉やよい、百瀬由美子、山田聡子、野口真弓、大西文子、東野督子、森田一三、長谷川喜代美、カルデナス暁東、小林尚司、田村由美、中信利恵子、百田武司、小松浩子、櫻本秀明、高橋清美、永松美雪、姫野稔子、本田多美枝、柳井圭子				
科目区分	特別研究	単位数	8 単位	オフィス アワー	教員一覧参照
開講時期	2～3年次 通年	時間数	240 時間		
■ 授業の目的 看護学の構築に向けて専門領域における課題について、フィールドワークから研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成から実施、研究論文作成までの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養い、博士学位論文作成に向けた指導を行う。					
■ 授業の概要 関心ある専門領域の文献レビュー、研究の前提となる理論枠組みあるいは基盤を明確化し、テーマの選択、研究の目的、研究方法の選択、データの収集、結果の分析、考察など研究の一連のプロセス及び研究倫理に基づいた研究の取り組みについて指導する。					
回	授業内容及び方法				担当
	【授業の進め方】 1 専門領域における課題について、先行研究のレビュー、フィールドワークから、研究課題と研究方法の明確化をはかり、研究計画書を作成する。 2 研究計画書の審査と研究倫理審査を受け、研究の実施に向けた準備を整える。 3 研究計画書に沿ったデータ収集および分析を行う。 4 研究の進捗状況に応じ、文献的裏づけ等を行いながら、結果の解釈を深める。 5 博士学位論文を作成する。 【研究指導体制】 年度末に特別研究報告書を用いて、主指導教員・副指導教員からゼミ形式にて指導を行うが、その間には専門領域の主指導教員から指導を受ける。				
■ 準備学習 指導内容を踏まえ、次回の指導までに資料を作成しておくこと。					
■ 教材・テキスト 適時、紹介する。					
■ 参考書 授業中に、適時、紹介する。					
■ 成績評価の方法及び採点基準 研究論文作成までのプロセスを研究報告書、研究計画書、作成中の博士学位論文から総合的に評価する。					
■ 教員からのメッセージ 各担当教員が設けているオフィスアワーやメール等を活用するなど、主体的な参加を期待する。					

研究指導教員名と指導の概要

- ・安酸 史子
看護学教育(実習教育、患者教育、看護師教育、看護教師教育)の教育方法論について研究指導を行う。
- ・西片 久美子
糖尿病等の慢性疾患や認知症とともに生きる高齢者とその家族の支援に関する研究指導を行う。
- ・石崎 智子
療養生活を送る人々およびその支援者のメンタルケアや精神障がい者支援の課題を改善・改革し、療養生活を営む人々がより良い生活を送ることができるような支援に関する研究指導を行う。
- ・志賀加奈子
予防接種を受ける子どもと家族の支援における援助方法や人材育成等に関する研究指導を行う。
- ・河口 てる子
看護援助モデルや教育支援モデルなど慢性疾患をもつ人とその家族への援助に関する研究指導を行う。
- ・原 玲子
質の高い看護サービスを提供するための看護組織のあり方や看護職のキャリア開発、継続教育に関する研究指導を行う。
- ・志賀 くに子
思春期を中心とした健康教育のあり方や方法に関する研究指導を行う。
- ・高田 由美
在宅療養者や認知症高齢者の食生活を支える看護援助に関する研究指導を行う。
- ・阿部 範子
親の育児困難感を低減するために、親サイド・子どもサイド、また子育てを支援する家族や育児環境の視点から、解決策探求に関わる研究を支援する。
- ・新田 純子
慢性疾患とともに生活する人々への看護実践に関する研究指導を行う。
- ・鎌倉 やよい
周術期にある人、摂食嚥下障害を有する人に対する看護ケアプログラムの開発を中心課題とし、主にシングルケースデザインに基づく介入研究を指導する。
- ・百瀬由美子
介護予防、認知症高齢者ケア、家族介護者支援、老年・在宅看護学領域における倫理的課題等に関する研究指導を行う。
- ・山田 聡子
看護基礎教育における看護倫理教育の在り方と方法に関する課題や、臨地実習指導における指導者役割と指導方法に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。
- ・野口 眞弓
在院日数の短縮化の中での母乳育児に関するケアの充実、および、それを支えるサポート体制づくりに関する研究指導を行う。
- ・大西 文子
てんかんやネフローゼ等の小児とその家族の日常生活支援のための看護援助に関する研究指導を行う。

- ・東野 督子
周術期にある人、療養する人の感染予防、口腔ケアなどの援助方法、教育プログラムに関連する研究指導を行う。
- ・森田 一三
量的研究を主とし、公衆衛生学、歯科学に関する研究指導を行う。

- ・長谷川喜代美
地域における看護活動、主として行政保健師の活動に関する課題に焦点をあてた研究指導を行う。
- ・カルデナス暁東
慢性疾患とともに生きる人々とその家族への支援に関する研究指導を行う。

- ・小林尚司
高齢者介護施設における看護および看護師への支援に関する研究指導を行う。

- ・田村 由美
IPWを基盤にした災害への備えに関する研究、災害時の避難所看護実践モデル開発に関する研究指導を行う。
- ・中信 利恵子
災害サイクルの各期において被災者や救援者に及ぼす影響、質の高い看護活動、救援者自身の支援に関する研究指導を行う。
- ・百田 武司
脳卒中患者やその家族の健康問題の解決やQOLを高める看護援助方法の検証・開発に関する研究指導を行う。
- ・小松 浩子
がん看護ならびに緩和ケア領域における看護実践開発に関する研究指導を行う。

- ・櫻本 秀明
小児から高齢者までを含むクリティカルケアをうける患者や、その家族の支援に関する研究指導を行う。
- ・高橋 清美
精神科領域における口腔ケアシステムに関する研究、地域におけるうつ病教育に関する研究指導を行う。
- ・永松 美雪
リプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題に関連する要因の分析や予防モデルの開発に焦点を当てた研究指導を行う。
- ・姫野 稔子
老年期にある対象者の倫理的問題、看護介入の効果の測定ならびに看護介入モデルの開発に関する研究指導を行う。
- ・本田 多美枝
キャリア各期の特性に応じた人材開発の方法、リフレクションを活用した看護職の実践力開発の方法論、熟達化に関する看護モデル開発に焦点を当てた研究指導を行う。
- ・柳井 圭子
医療安全・医療過誤訴訟を含む看護に関する法政策に関する課題、看護の倫理的問題に関する課題に焦点を当てた研究指導を行う。